

会 議 録		令和6年9月9日作成	令和10年3月末日廃棄
会議名	京都府亀岡警察署協議会（令和6年度第2回）		
開催日	令和6年9月3日（火曜日）		
時 間	午後4時から午後5時45分までの間（105分）		
場 所	京都府亀岡警察署 講堂		
出席者	湯浅会長、木曾副会長、栗山委員、櫻間委員、サミュエル委員、内藤委員、藤本（妙）委員、藤本（祥）委員、前田委員 （欠席 國府委員、矢田委員） 計9人		
	署長、副署長、会計課長、警務課長、生活安全課長、地域課長、刑事課長、交通課長、警備課長、広聴相談係長 計10人		
諮 問 事 項	1 投資・ロマンス詐欺の現状及び防犯対策について 2 亀岡におけるテロ対策等について		
会 議 内 容	<p>1 会長挨拶 司会 警務課長</p> <p>2 署長挨拶</p> <p>3 協議 司会 会長</p> <p>(1) 諮問事項説明</p> <p>投資・ロマンス詐欺の現状及び防犯対策について～生活安全課長</p> <p>【委員】ロマンス詐欺被害の相談については、受理後はどのような展開になるのか。また、インターネットが使用された犯罪において、犯人の特定はどのように行われるのか。</p> <p>【警察】警察が被害相談を受理した場合、大きく分けると、被害届を受理して事件捜査を開始するパターンと、相談者が被害届の受理を希望されないパターンとに分かれる。</p> <p>犯人の特定については、この種の犯罪は海外のサーバーを介しているのがほとんどで、捜査が非常に困難なことも多い。</p> <p>警察では被害を把握した場合、まずは振込先口座を確認し、そこにまだお金が残っていれば、それは被害者へ返済される運びとなる。万が一、だまされて現金を振り込んでしまった場合には、一刻も早く警察へ相談してほしい。</p>		

会 議  
内 容

【委員】 SNSを使用していると、そのうちにロマンス詐欺の犯人とつながる可能性はあると思う。では、我々はどの時点で「おかしい」と思って警察に相談をすべきなのか。

【警察】 だます方法には様々なパターンがあり、なかなか判断が難しいと思うが、共通して言えるのは「お金の話が出れば怪しい」ということである。お金の話が出ればちゅうちょせず、警察に相談してほしい。

【委員】 例えば詐欺事件でLINEを使用していた場合、契約内容等から犯人の特定はできるのか。

【警察】 仮に契約者や使用者が判明したとしても、他人名をかたつたなりすましというパターンも多々ある。警察はこれらのことを想定した上で、慎重に捜査を行っている。

【警察】 少し前に話題となった「ルフィー事件」では、指示役は国外のフィリピンにいて、闇バイト等で集めた人員を使って犯行を重ねていた。押収された携帯電話は相当の数であり、指示役の特定に困難を極めたことは報道されていたとおりである。このように、携帯電話をツールとした現代の犯罪は、犯人の特定が非常に困難となってきているのが現状である。

【委員】 詐欺被害の話聞く度に思うのだが、普通に考えても、そんなにうまく金儲けができたり、夢のような恋愛がインターネット上にゴロゴロと転がっているはずはない。また、犯罪被害は一度引っかかってしまうと、たとえ犯人が捕まったとしても、財産を元通りに回復することは非常に困難である。犯人は心の隙間に入り込むのが非常に上手いのかかもしれないが、個人個人がもっと注意深く判断しなければならないと思う。

【警察】 警察が取り扱う被害者の方の中には、最後まで「自分は絶対にだまされていない」と言い切る人達もいる。裏を返せば、それほど犯人の話術が巧みであるとも言え、銀行員や警察官から質問を受けた場合の応答についても指示を受けていることが多い。

【委員】 先ほどのパワーポイントによれば、投資詐欺は40代・50代・60代、ロマンス詐欺は50代・60代の被害が多いとのことであったが、時間が経って現在の20代・30代がその年代となったとき、やはり今と同じように被害に遭う確率が上がるのだろうか。今の若者の間ではインターネットによる出会いや結婚が増えてきているので、そのような状況がどう影響するのかを知りたいと思つての質問である。

【警察】 今後どうなるのかは、今、どのような対策をするのかということにかかっていると思う。だから、一人でも多くの方が詐欺をはじめとする各種犯罪被害の現状を知ってほしい。

生活安全課には「スクールサポーター」という職員が勤務しており、小中学校で児童・生徒と接する活動を行っている。その活動の一環として、犯罪被害や薬物乱用などについても定期的に講話を行っており、社会に出る前の段階から犯罪被害について学習できる体制をとっている。

【委員】LINEやEメールには日々、胡散臭い内容の着信があり、毎回、それらを削除・ブロックしているが、私は過去に1度だけ、その手口に引っかかりかけたことがある。それは一見して、メールアドレスを間違えて見知らぬ人が送ってきていると思えるメールであった。

相手は、最初の何回かは間違いに気付かず送っている体で送信し、途中から「もしかして間違えてますか。」という文章に変化した。私はそれがあまりに丁寧な文章だったことから、一度だけ「間違えてますよ。」と返信したところ、相手は「これをきっかけに、これからも連絡していいですか。」と送信してきた。このように、詐欺師はこちらの親切心や人の好さに付け込んで仕掛けてくるので、だまされないようにしてほしい。

【委員】詐欺と思われるメールは誰もが受信されていると思うが、そういった相談があったとき、その情報は警察内で蓄積されるようになっているのか。

【警察】本部で情報を集約し、犯罪捜査や被害防止啓発メールの発信などに活用している。

【委員】私には中高生の子供がいるが、まだ世間を知らない若年層が犯罪に巻き込まれることは非常に恐ろしい。そこで、中高生を対象とした出前防犯教室みたいなものを各学校で開催してもらえると嬉しい。

【警察】先ほどの話にも出たが、スクールサポーターが年間を通じ、各学校の授業の中で計画的に防犯教室を開催している。

【委員】我々は、防犯教室等で教えてもらった情報をきちんと理解し、自分自身が詐欺に引っかからない対策と心構えをとっていかないと、被害を完全に防ぐことはできないと思う。

## (2) 諮問事項説明

亀岡におけるテロ対策等について～警備課長

【委員】組織ではなく単独でテロを引き起こす「ローンオフエンダー」について説明があったが、それは日常生活とかけ離れた遠い存在ではなく、私たちが普段から接している人、例えば職場の中にも、そういう気質の人物が潜んでいる可能性があると思う。私が家族から聞いた職場同僚の人は考え方や言動がとても過激だそうで、今日のお話を聞いた時、最初にその人のことが頭に浮かんだ。昔はテロリストというと、普段

会 議  
内 容

から何をしているのか分からない人たちがアジトにこもり、密かに爆弾を作っているイメージだったが、個人個人が多様化した現代では、普通に社会生活を営んでいる人々にも目を向けていかなければならないと感じた。

【委員】先日、某国の要人が亀岡市に来られたことがあったが、そのような時には、京都府警察本部だけでなく警察署としても警護等に従事されているのか。

【警察】詳細を申し上げることはできないが、もちろん、そのような情勢は事前に情報をキャッチし、然るべき対応・対策を行っている。

【委員】近年、無差別の殺傷事件や、爆発物を作って爆発させるという事件が発生しているが、「隣りは何をやる人ぞ」という世の中の移り変わりが事件の発生を促しているように感じる。地域間のつながりが希薄化し、自治会の加入率が下がったり、警察への協力を拒んだりする人達も多い。個人情報是非常に大切なものであるが、それを前面に押し出し主張したことによって、大切な治安を引き換えにしてしまった感がある。そして、このことはテロだけでなく、高齢者の見守りなどにも通じるところがある。いくら地域で見守り活動を推進しようと思っても、その家族から情報提供を拒まれば、なす術はない。そういった状況を現代のツールで補完するのが、防犯カメラの設置ではないかと思う。亀岡市と警察の連携によって防犯カメラの設置が進めば、亀岡市の安全対策は大きく変わらと思う。

【委員】国民保護法とテロ対策ネットワークとの住み分けについて教えてほしい。

【警察】国民保護法は懸念国からの攻撃に対する自治体の避難時の措置を規定したもの、テロ対策ネットワークは国内におけるドメスティックな攻撃に対する対応や啓発活動をとるものという住み分けである。

【警察】テロに関しては「亀岡にはあまり関係ないもの」という印象を持たれている方もいらっしゃるかもしれないが、今日を境にテロへの関心を持つスタートラインに立っていただきたいと考えている。

行動が不審な人物の状況等を把握できれば、遠慮なく警察へ情報を寄せていただきたい。警察ではその情報をもとに、取りうる限りの措置によってテロを未然に防いでいく所存である。

4 事務連絡

令和6年度第3回京都府亀岡警察署協議会は、令和6年12月中に実施予定である。

以上

## 第2回京都府亀岡警察署協議会の開催状況

